**２０２３年７月29日(土)　虚子記念館会場**

 窪田英治

〇 片蔭に見上ぐる浅間山虚子と思ふ 小泉博夫

 ほつれ毛の項の痒し風の死す 戸上晶子

 縁側に座せば涼風虚子旧居 山下添子

 片蔭も無き坂に負け帽子買ふ 大久保健一

 稲の花爆ぜてちりちり風に揺れ 戸上晶子

 井越芳子

 片蔭の狭き街道バスを待つ 山下添子

 これでもかと昼顔に日のいらいらと 窪田英治

 沢の音の冥きに誘ふ蝉時雨 中村かりん

〇 日焼せし人とぶ厚き握手する 飛田小馬々

 日と影の狭間に歪み夏帽子 くぼ六茶

 中村かりん

 板の戸の手擦れのあとの夏座敷 北尾千草

 縁側に座せば涼風虚子旧居 山下添子

 日と影の狭間に歪み夏帽子 くぼ六茶

〇 稲の花爆ぜてちりちり風に揺れ 戸上晶子

 昼顔や子らの声消ゆ麓村 窪田英治

 北尾千草

 日盛のやぐら炬燵を机とし 山下添子

〇 夏落葉虚子先生の独り言 飛田小馬々

 署名して冷し胡瓜を丸かじり 大坪正美

 昨日今日小諸の青田飽かず見る 窪田英治

 この風に昔ありけり赤蜻蛉 くぼ六茶

 山下添子

 片蔭に小鳥のやうな恋する娘 小泉博夫

〇 夏落葉虚子先生の独り言 飛田小馬々

 日と影の狭間に歪み夏帽子 くぼ六茶

 日盛の地に鳥影のよぎりたる 井越芳子

 片蔭に入れぬ地蔵の二体あり 大久保健一

 大坪正美

 夏野菜ごろごろ売らるる駅に着く 飛田小馬々

 ふたりなる声近づき来晩夏光 井越芳子

〇 日焼けせし人とぶ厚き握手する 飛田小馬々

 蝉声とほくゆきどまる沢の道 井越芳子

 この風に昔ありけり赤蜻蛉 くぼ六茶

 小泉博夫

 沢の音の冥きに誘ふ蝉時雨 中村かりん

〇 昼顔や子らの声消ゆ麓村 窪田英治

 ふたりなる声近づき来晩夏光 井越芳子

 架線にも夏のあるらし鳥重し くぼ六茶

 夏落葉虚子先生の独り言 飛田小馬々

 滝代文平

 夏野菜ごろごろ売らるる駅に着く 飛田小馬々

 片蔭に見上ぐる浅間山虚子と思ふ 小泉博夫

〇 これでもかと昼顔に日のいらいらと 窪田英治

 日と影の狭間に歪み夏帽子 くぼ六茶

 鬼百合の番してゐたる鳥居かな 中村かりん

 飛田小馬々

 ふたりなる声近づき来晩夏光 井越芳子

 青蛙沸き飛ぶ虚子の田んぼかな くぼ六茶

〇 沢の音の冥きに誘ふ蝉時雨 中村かりん

 稲の花爆ぜてちりちり風に揺れ 戸上晶子

 花の名を問ふ母のゐて百日紅 小泉博夫

 くぼ六茶

 紫陽花のまだ盛りなる小諸かな 大坪正美

 向日葵のひときは高し雑草園 滝代文平

〇 ほつれ毛の項の痒し風の死す 戸上晶子

 花の名を問ふ母のゐて百日紅 小泉博夫

 書院窓桟の細きや涼しかり 北尾千草

 大久保健一

 昼顔や子らの声消ゆ麓村 窪田英治

 板の戸の手擦れのあとの夏座敷 北尾千草

〇 青蛙沸き飛ぶ虚子の田んぼかな くぼ六茶

 縁側に座せば涼風虚子旧居 山下添子

 すくと立つ観音像の炎天に 山下添子

 戸上晶子

〇 架線にも夏のあるらし鳥重し くぼ六茶

 板の戸の手擦れのあとの夏座敷 北尾千草

 百合化して蝶となりたる鳥居かな 井越芳子

 水引に脚ありあまる蟬の殻 大坪正美

 夏の蝶四方山話に割り込めぬ 飛田小馬々